

2019 年度 法人本部事業報告書

| | |
|------|--|
| 事業種別 | 法人本部 |
| 事業概要 | 法人経営方針 |
| 事業方針 | 1. 法人組織運営と経営ガバナンスの強化を一層推進し、法人組織と財政の強化を図る。 2. 次の 10 年を見通した法人運営と事業計画「つながりビジョン(仮称)」の検討を進める。 3. 地域社会貢献事業計画策定と災害対策の強化を図る。 |

【2019 年度の成果と課題】

1. 法人組織運営と経営ガバナンスの強化を一層推進し、法人組織と財政、人材育成の強化を図る。

- クラウド型グループウェア(IQubu)活用をはじめとして法人組織経営についてのガバナンスの強化とあわせ研修計画の着実な実行に努めた。
- 課題であった職員定着率向上について 2019(R 元)年度は離職者3名にとどまりこれまでの二桁台から大幅に改善を果たした。

* 離職率の推移(4 月時点在職者÷年度内退職者)

| | |
|-----------|------------------|
| H28 年度離職者 | 13 名/67 名(19.4%) |
| H29 | 12 名/72 名(16.6%) |
| H30 | 8 名/67 名(11.9%) |
| R 元 | 3 名/68 名(4.4%) |

- 人材育成に関わっては新たな人事制度に基づき福祉国家資格取得者への手当等も導入し育成に努め、2019 年度についてはサニースポット職員で社会福祉士・介護福祉士各 1 名、ライラック職員で介護福祉士 1 名の計 3 名が国家資格を取得した。

2. 次の 10 年を見据えた「つながりビジョン(仮称)」の検討を進める。

- 分散している各事業所の統合に向けた用地確保について検討を開始し、富田町 2-11-22 において物件(土地 60.58 坪、2000 年 1 月築木造 2F 建物)を取得した。新規取得物件については放課後等デイサービス「ふらっと」移転と就労継続 B 型施設開設を予定。
- 新規利用者を確保するための条件整備に向け、家族会入会金見直し(法人への任意寄付に変更)が図られ、新年度についてはサニースポットで 5 名の新規利用者を獲得した。
- 総合管理者としての「経営職」設置、収支分析に基づく既存事業の見直し・事務効率化等の課題等を含めた「つながりビジョン(仮称)」検討については部分的検討にとどまり全体計画化するには至らなかった。

3. 地域社会貢献事業計画策定と災害対策の強化を図る。

- 法人内プロジェクトへの職員の参加を促すとともに、地域にあるニーズの事業化をはじめとして関係団体との連携のもとに協働事業の具体化を図った。今年度については「富田わくわく子ども食堂」の協働開催はじめタウンスペース WAKWAK との事業連携を行ったが、「富田わくわく子ども食堂」に関しては、新型コロナウイルスの関係で開催中止となった。

- 法人本部として非常災害対策計画を新たに改定作成し、事業所ごとの計画策定支援を行った。また、府立高槻支援学校および PTA 主催の「宿泊防災避難訓練」に職員のボランティア派遣を行った。

【次年度にむけて】

- 未来への投資を可能とする法人財政(収益力向上)と人材育成の強化を図る。
- 新たな事業計画「つながりビジョン(仮称)」の検討を進める。
- 「働き方改革」にもとづき、職員が働き続けられる環境整備を推進する。
- 地域にある法人として「地域社会貢献事業計画」の具体化と災害対策の強化を図る。

2019 年度 サニースポット事業報告書

| | |
|------|---|
| 事業種別 | <ul style="list-style-type: none"> ● 障がい者生活介護（第 2 種社会福祉事業）定員：50 名 ● 障がい者就労継続支援事業 B 型（第 2 種社会福祉事業）定員：10 名 |
| 事業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ● 常に介護を必要とする人に、昼間、食事の介護等を行うとともに、創作的活動または生産活動の機会を提供する。 ● 利用者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、就労・生産活動・その他の活動の機会を提供すると共に、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う。 |
| 事業方針 | <p>【生活介護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者が安心して過ごせる環境のなかで、本来の自分らしさを損なわず社会に適応していける力(マナー、社会性など)を身につけていく。 ● 利用者の望む場所でどのように生活していくかをご家族の方と一緒に考えていくと同時に、親元を離れても生活していける環境と資源を作り出していく。 ● 経済活動(授産活動)を通して、本人がより充実した生活を送れるように支援していく。また、障がいの重度、軽度に関わらず、「働くこと」を感じてもらえるような機会を提供する。 <p>【就労継続 B 型】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者が「働く事」を意識できるような環境を整え、本人がより充実した生活を送れるように支援していく。 2. 経済活動(授産活動)を通して、社会生活上必要とされるマナーや社会ルールを身につけていく。 3. 一般就労に対して意欲がある利用者に対しては、実習または就労へチャレンジできる機会を設ける。 |

【2019 年度 事業成果と報告】

1. 製菓作業場所の確保と製菓製品の定番化

- 喫茶エリアにて製菓作業も行えるよう改装のレイアウト、見積もりを依頼し準備を進めてきた。補助金申請を行うが不採用のため、今年度の予算執行で業者に依頼する予定だったが、来年度以降の事業計画の変更もあり再度補助金申請を行うことになった。来年度に補助金申請を行うかを検討していく。補助金を活用して POS レジを導入し、令和元年 10 月より導入された軽減税率に対応した。また、授産製品の売り上げ、販売個数のデータ化を行い製造計画の際に活用している。

2. 一泊旅行の実施(伊勢スペイン村)

- 担当職員を中心に旅行業者の選定から準備を行った。コラム、ワークスポットからのフォローもあり、当日は大きな事故もなく終えることができた。7 年ぶりの一泊旅行で初めての職員が多い中、臨機応変に対応できていた。参加者(利用者 50 名、職員 26 名、実習生 1 名 計 76 名) 年 1 回実施している「サービス利用アンケート」では、余暇活動(日帰り旅行や一泊旅行、土曜開所な

ど)の項目で、前年度までやや不満が数人いたが、この一泊旅行の計画があっただけで全てやや満足以上となった。

3. GW 期間中の三日間(4月30日、5月1日、2日)の開所と10月22日の祝日開所
 - 4月27日～5月6日のGW期間中の三日間(4月30日、5月1日、2日)の開所を行った。述べ120名が通所された。また、10月22日が即位の日で祝日となったが、10月に土曜開所を行う予定ではなかったため祝日開所とした。(43名利用)
4. 車輛の整備
 - 1台は、日産自動車(株)にて車イス対応車(セレナ)のリース契約を行い4月より運用している。もう1台の確保のため24時間チャリティー、日本財団へ補助金申請を行ったが不採択となったため、来年度の送迎について確認し必要に応じてリース契約も含めて検討していく。
5. 施設照明のLED化
 - 3社に見積もりを依頼し、選定の結果(株)ZEROに、施工して頂いた。8/8工事終了。以前より室内が明るくなり、点かなかった蛍光灯も直り現在のところ問題は全くなし。省エネ効果については、昨年と比べて検証を行っていく。
6. 食堂、しゃあぶ、生活2作業室の大型TVの設置とカラオケ環境の整備
 - 食堂に65型液晶TV、しゃあぶと生活2作業室それぞれに50型液晶TVを設置した。施設見学や日々の作業の合間での過ごし方やフェスタ・ヒューマンライツでの発表練習の為に活用している。また、利用者ニーズの高いカラオケ環境の整備を行い活用している。
7. 新規利用者(生活介護)の確保と授産活動の見直し
 - 新年度より5名の新規利用者を確保することができた。(高槻支援学校3名、茨木支援学校2名)生活1では、アロマ作業を整理し出張について見直しを行った。さをり織り製品は、同じ製品ばかりにならないよう新製品をお祭りごとに発売することができた。製菓も含めて商品数が大幅に増やすことができた。生活2では、作業を行いたいニーズが高いことから縫製をはじめレザークラフト、畑の作業を増やした。芝生小学校の記念品にレザーストラップ500個の受注を受けたため、ハンドプレス機とホットスタンプ、はにたんの焼印を購入し、多量の受注にも対応できるよう環境を整えた。
8. 就労継続B型の見直し
 - 高槻市障がい福祉課とも協議しながら、令和2年3月末でサニースポットの就労継続B型を廃止し、生活介護利用定員を段階的に50名→60名に変更予定。また、次年度、ワークスポットにて就労継続B型を増設する方向となる。

【重点的に実施した取組】

- 利用者様のサービス利用アンケートで要望の高かった一泊旅行(志摩スペイン村)を7年ぶりに実施した。殆どが宿泊での支援経験のない職員だったが、臨機応変に利用者様の対応を行う事ができた。また、当法人での経験年数が長い職員も参加し、大きな事故もなく終えることが出来た。後日、利用者一人あたり4枚(うち1枚は全体)の写真を配布した。利用者様・ご家族様からは旅行前から楽しみにされ職員に励ましのお声を頂き、旅行後は労いの言葉をたくさん頂いた。
今年度は、さにすぽ夏祭り、一泊旅行、フェスタヒューマンライツの3イベントと施設の環境整備を重点的に職員がまとまって行うことができた。利用者様の満足度の向上と職員の仕事へのやりがいにもつながり、2019年度の生活支援員の離職率は0%を達成することが出来た。

【次年度にむけて】

- 就労継続B型の移行に伴い、事業を生活介護の1本化とし利用者定員を50名から60名までに増やし、新規利用者を3名受け入れる。次年度、高槻支援学校、茨木支援学校卒業生の5名が新規で利用を開始される。サニースポットで落ち着いて過ごせることが出来るように職員全体で取り組む。現在のサービスの質を落とさず、継続的に新規利用者を受け入れられるよう環境整備を行う。

2019 年度 しゃあぶ事業報告書

| | |
|------|--|
| 事業種別 | 日中一時支援（高槻市地域生活支援事業）定員：5名 |
| 事業概要 | 障がい者・児等を日常的に介護している家族の一時的な休息や就労のため、障がい者・児の日中における活動の場を提供する。 |
| 事業方針 | <ul style="list-style-type: none">● 利用者本人が楽しく、リラックスした環境で過ごせるように支援を行うとともに、社会性を身につける場を提供する。● 家族の就労支援及び介護負担の軽減に取り組む。 |

【2019年度の成果と課題】

1. 事業を安定して継続させていく。

- 昨年度と同様に週2日（火・水）16:00-20:00での受け入れを行った。正職員と勤務希望の専任職員がシフトで交代にて勤務。緊急時の受け入れについては、その都度、相談員やご家族と相談し可能な範囲で受け入れをおこなった。

【重点的に実施した取組、次年度にむけて】

- 緊急時の受け入れについては、相談員やご家族と相談し可能な範囲で受け入れを行った。今後も継続し受け入れが困難な場合は、サニースポット以外の事業所に相談し対応を検討する。
正職員と専任職員がシフトで交代にて勤務したことで、残業時間が増加した。次年度は、残業時間を減らすために、主担当を1名配置しもう1名をシフトでの勤務とする。

2019 年度 ワークスポット事業報告書

| | |
|------|---|
| 事業種別 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 障がい者就労移行支援事業(第2種社会福祉事業) 定員:10名 2. 障がい者自立訓練(生活訓練)事業 (第2種社会福祉事業) 定員:10名 3. 障がい者就労定着支援(第2種社会福祉事業) |
| 事業概要 | <p>【就労移行支援事業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 就労を希望する 65 歳未満の障がいのある方であって、一般企業等への就職が可能と見込まれる方に対して、生産活動、職場体験その他の活動の機会を提供する。 2. 就労に必要な知識および能力の向上のために必要な訓練。個々の適性に応じた職場の開拓と求職活動に関する支援、 3. 就職後 6 か月間の職場定着に必要な相談等の支援を行う。また、就労定着支援事業期間終了後も必要に応じて就労者の支援を継続する。 <p>【自立訓練事業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域生活を営む上で、生活能力の維持・向上等のため、一定の支援が必要な障がいのある方に対して、生産活動・その他の活動の機会を提供する。 2. 食生活、整容面、衣食住、服薬・健康管理、金銭管理、安全管理、社会資源・公共機関の利用、余暇活動、対人関係、就労前訓練等の支援を行う。 <p>【就労定着支援事業】</p> <p>就職後 7 か月目～3 年 6 か月迄の職場での定着に必要な支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労定着支援計画の作成と交付、・月 1 回以上の面談と職場訪問 ・障がい者就業・生活支援センターや医療機関との連携 ・日常・社会生活上の相談への助言その他 ・サービス利用中に離職する者への支援 ・ご家族等に対する連絡調整 |
| 事業方針 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活力強化に係る年間プログラムに沿って支援を行う。 2. 個々のニーズや特性の把握によりご本人が働きやすい職場の開拓と就職支援を積極的に行う。 3. 職員研修や庁内実習、地域のネットワーク会議等の参加により職員のスキルアップを図り、支援の質を高める。 |

【2019 年度の成果と課題】

1. **【自立訓練】**生活訓練の強化に係る年間プログラムの構築
 - 自立に向けた生活能力の向上につながる年間プログラムが概ね完成した。
令和 2 年度よりプログラムに沿った訓練内容を実施する。
 - 一部、アイロンかけのような繰り返し練習の必要なものについての対応ができていない。
 - 次年度の新規利用者の確保ができなかった。【重点課題へ】

2. **【就労移行】** 年間就職者数 5 名を目標に更に積極的な就職活動支援を行う。

- 利用者ニーズに沿って関連企業との連携や新規開拓により、今年度上半期に4名の就職者を出すことができた。前年度下半期1名の就職者と合わせて目標の5名の就職者を達成。
5名の就職先：サンスター(株)、(株)NTT ロジスコサービス(2名)、(株)平和堂アル・プラザ茨木、山陽マルナカ
- 今年度下半期には2名の就職が決まっている。
2名の就職先：デリカフーズ(株)、(有)ワイケー工業

3. 【庁内実習】 担当職員を配置し、委託を受けているサポーター業務を誠実に遂行する。

- 庁内の各部署より仕事をいただくことができている。利用実績は昨年並みで36名/年の予定。
- 職員の支援力の向上につながることもサポーター業務を行う上でのメリットと考えているが、今年度はサポーター業務を行える職員が限定されていた。
-

4. 【就労定着】 利用者の随時申請と就労3年以内での職場定着を目指した支援を行う。

- 企業担当者との信頼関係を築き連携して支援ができている。今年度、離職者はゼロ。
- 個別課題のある方については、本人はもとよりご家族・医療機関・支援機関・職場との連携によって改善することができ、離職に至らなかった。
- 安定して就労できている方については、訪問回数を減らすなどフェイドアウトに向けナチュラルサポートをお願いするなどの提案を行うことができた。
- 個別課題について本人への改善を求めるだけでなく、職場サイドの本質的なニーズを把握した上で、支援員が間に入る等の対応が必要であった。

【重点的に実施した取り組み】

- 支援学校を卒業して間もない利用者が、『生活面での自立を目的とした自立訓練を経て就労移行に、そして就労訓練を終えて就職し、定着支援を受けながら長く働き続ける』。この支援の流れがスムーズに行えるように、各事業についてプログラムの構築を進めるとともに、目標の就職者数の達成と就職後の職場定着支援に努めた。また、就労支援員としての知識の習得や支援力の向上を目指して、積極的に研修に参加した。

【次年度にむけて】

- 次年度は就労継続B型事業をワークスポットで実施するために、物件の準備等ハード面での整備や作業内容の準備を進め、8月スタートを目指す。また今春は、高槻支援学校等卒業生の利用希望が無かったため、次年度は自立訓練、就労継続B型事業を含めて、より充実した就労支援事業所としてPRできるように、ネット環境からの発信やパンフレットのリニューアルを実施していくとともに、現在のワークスポットの環境を整え、より魅力ある事業所を目指していきたい。同時に、上半期2名、下半期3名の就職者が達成できるように新規企業の開拓や、すでに定着支援を行っている企業からの情報収集を行っていく。

2019 年度 コラム事業報告書

| | |
|------|--|
| 事業種別 | 障がい者共同生活援助事業（第 2 種社会福祉事業）定員：18 名 |
| 事業概要 | 地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、夜間や休日、共同生活を行う住居で、相談、入浴、排泄又は食事の介助等、日常生活上の援助を適切かつ効果的に行う。 |
| 事業方針 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 障がいのある人が地域の中で当たり前生き生きとした生活を営むことができるように支援を行う。 2. 利用者の希望をよく聞き、一人ひとりの特性を理解した上で、その人に合わせた個別支援を行う。 3. 職員都合ではなく、常に利用者主体の支援を行う。 |

【2019 年度の成果と課題】

1. 実地指導に向けての準備

- 2019 年 10 月 10 日に高槻市による実地指導が行われ、(一)夜間支援員を除いた人員基準が満たされているかの確認、(二)勤務予定(実績)一覧表における夜間支援員の区分の明確化、(三)夜間支援体制加算(Ⅰ)の過剰請求、以上 3 点の指摘を受け、12 月 11 日に改善報告書の提出を行った。(三)に関しては平成 29 年 5 月のコラム富田開所当初から令和元年 9 月分まで約 19 万円の返金が発生したが、他に追加で請求できる部分も見付き、差し引き約 34 万円のプラス請求となった。書類整備や押印の確認が不十分な点があったため、シフトや業務分担の見直しを行ったが、現場支援と事務作業のバランスの更なる適正化を図る必要がある。

2. 人材の確保・育成

- 正規職員 1 名、専任職員 1 名の退職があったが、それに代わる人材を確保し、人員基準を満たすことができた。パートの新規入職者が 5 名いるため、面談や OJT、研修会への参加機会を増やして、今後更なる育成を図り、支援の質を落とさないようにしなければならない。

3. 既存グループホームの適切な運営方法の検討、および新規開設に向けての取り組み

- 既存グループホームについては実地指導の改善点も含め、適正な運営を行った。但し、災害に弱い地域にある住居の対策や新規開設については今後、具体的な取り組みが必要となる。

【重点的に実施した取組】

- コラム富田の開設以来、現場における利用者支援を最優先とした取り組みの中で、一部事務作業とのアンバランスが生じていたため、実地指導を契機として改めて書類整備や適切な請求方法等の見直しを行った。実地指導では結果的に差し引きでプラス請求となったが、プラスが良かったという問題ではなく、今後、より正確な請求ができるように業務に取り組む。

【次年度にむけて】

- 必要人員を確保したうえで、利用者の生活の質の向上を目指す。日常生活の支援に加え、利用者の公私に渡る生活に好循環を生み出すような効果的なイベントを開催し、余暇支援を充実させる。
また、防災・減災について改めて見直しを行い、現行グループホームおよび新規グループホームに生かせるような安全対策の再構築を行う。

2019 年度 ライラック事業報告書

| | |
|------|--|
| 事業種別 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ホームヘルプ(障がい者・児居宅介護事業及び重度訪問介護事業・高齢者訪問介護事業及び介護予防訪問介護事業) 2. ガイドヘルプ(障がい者・児移動支援事業及び行動援護事業) 3. 相談支援(指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業・高槻市委託相談支援事業・障がい支援区分認定調査) |
| 事業概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者が居宅において日常生活を営むことができるよう、利用者の身体及びその他の状況や環境に応じて、入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事、その他生活全般にわたる援助を適切に行う。 2. 外出の支援が必要と認められる方に対して、外出時の移動の介護等外出時の付き添いを行い、利用者の自立の促進及び、QOL(生活の質)の向上、社会参加等の促進を図る。 3. 障がい福祉サービス等利用計画の作成、一般的な相談支援や障がい支援区分の認定調査等、面談や訪問を通して必要な情報提供、助言や必要な支援を行う。 |
| 事業方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の心身の状況やその環境に応じて、利用者の意向を尊重する。 ・特定の種類または特定の障がい福祉サービス事業者に不当に偏ることのないよう公正中立に行う。 ・関係市町村、保健所、相談機関、他の相談支援事業所等との連携に努める。 |

【2019 年度の成果と課題】

1. 居宅介護中心の事業運営

- 居宅介護を中心とした勤務シフトで事業運営を行う。

平成 30 年度と平成 31 年度の稼働実績は以下となる。

居宅介護事業 30 年度 月平均利用者数 31 名、訪問回数 2,935 回、サービス提供時間 3,530 時間。

31 年度 月平均利用者数 30 名、訪問回数 3,281 回、サービス提供時間 4,036 時間。

介護保険事業 30 年度 月平均利用者数 4 名、訪問回数 417 回、サービス提供時間 514 時間。

31 年度 月平均利用者数 2 名、訪問回数 338 回、サービス提供時間 350 時間。

移動支援事業 30 年度 月平均利用者数 35 名、利用回数 858 回、サービス提供時間 2,835 時間。

31 年度 月平均利用者数 36 名、利用回数 999 回、サービス提供時間 2,915 時間。

介護保険事業については、利用者の他機関への移行にともない減少となり、居宅介護と移動支援については、昨年の実績を上回る稼働を行う事ができた。

2. サービスの質の向上

- 今年度も利用者満足度アンケート(ニーズアンケート)を行い、利用者からは大半が概ね満足との内容ではあったが、このようにして貰いたいなどの要望に関しては、定例ミーティング時に情報共有を行う事で、サービス提供に反映するようにした。

3. 積極的な研修の参加

- 外部研修…4月バリアフリー展。6、7月移動支援養成講座(全身性)、喀痰吸引第3号。
9月サービス提供責任者研修セミナー、医療的ケア児等支援者養成研修。
10月相談支援初任者研修
- 内部研修…毎月の定例ミーティング時に外部研修のフィードバックによる情報共有を行う。

【重点的に実施した取組】

- 居宅介護を中心としたシフト作成を徹底し、移動支援後に居宅介護を利用するといったサービス提供ができた事などもあり、居宅介護と移動支援については昨年度の実績を上回る稼働ができた。
- 移動支援従事者養成講座について、開催できる体制がとれない事から令和2年3月末にて事業は廃止とした。

【次年度にむけて】

- 管理者とサービス提供責任者の入れ替えを行い大きな職員体制の変更となりますが、利用者にご迷惑や不安がかからないよう前年度の稼働を継続維持していく。

2019 年度 ふらっと事業報告書

| | |
|------|---|
| 事業種別 | 障がい児通所支援事業 児童発達支援・放課後等デイサービス 定員:1日10名 |
| 事業概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者は高槻市在住の知的・身体・発達障がい児とする。 2. 定員は児童発達支援・放課後等デイサービスと併せて10名とする。 3. 就学中の障がい児に対し、自宅以外の活動する場所を提供する。 4. 療育プログラムを通じて、日常・社会生活に必要な能力の向上を目指す。 |
| 事業方針 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における障がい児の将来的な生活を考え、個別と集団でのプログラムを通じて、未就学から学校生活、学校生活から社会生活へ転換するための社会的基礎能力を身につけてもらう。 2. 継続的に統一した支援が行われるよう必要に応じて家庭や事業所、学校との連携を図る。 3. 個々の得意なことや興味・関心を把握し、大切に伸ばしていく。また、療育プログラムを充実させることで、利用児の参加意欲を引き出し、知識・経験の幅を広げ、達成感を得られるように支援を行う。 |

【2019年度の課題と成果】

1. 継続した一定の利用児の確保

- 放課後等デイサービスの契約数33名、実利用数30名で2019年度はスタートした。途中1名契約解除となったが、利用児1名に対して複数回利用を定着させ、数回の休日開所やさにすぽ祭り等への参加を促した結果1日7名～10名、週累計利用数35名～40名と幅はあるものの利用率を2018年度の69.5%→約76.4%に上昇させることができた。2020年度は新規契約を含め実利用数32名、利用率85%を定着させる。

2. 未就学事業開設の準備

- 2019年9月1日に児童発達支援事業を開設することができた。現状問合せはあるが利用に至らず子育て総合支援センター、保健所等の機関や、他事業所からの紹介を受けながら未就学児の獲得に努めた。

3. 室内活動と外出活動を柱にし、プログラムを定着させる。

- 平日は創作活動や買い物支援を主とし、長期休暇は利用児全員に対し、同じ外出先へいくことができている。1日、1週間、1ヵ月、1年の各プログラム内容の企画と実行ができた。
- 2月中旬以降「新型コロナウイルス感染拡大」に伴い外出機会の減少を余儀なくされ、可能な外出(散歩・車両移動等)を想定しながらプログラムの再構築を求められた。
- 3月初旬から高槻支援学校、高槻市内小中学校の臨時休校が決まり、春休みの前倒しで長期休暇期間のサービス提供利用が始まった。室内活動を主とすることは曜日や利用児同士によっては難しく、室内活動・可能な外出活動を模索した。

4. 土曜開所(年4回程度)の実施

- ○年生～□年生と学年幅を設定し、6月(天保山マーケットプレイス)・9月(奈良生駒山上遊園地)・10月(雨天のため京都水族館)・12月(宝塚手塚治虫記念館)の4回実施した。昼食はすべて外食し、利用児の嗜好、適量、マナー面を理解することができた。施設内で多人数の中での過ごし方や関心の有無を利用児ごとに確認できた。
- 2月は「コロナウイルス感染拡大防止」に伴い外出企画(ひらかたパーク)を中止し、サニースポット内でカラオケ・ゲーム等を再企画し開所した。

5. 非常勤職員の新規採用予定

- 2019年3月末で1名の児童指導員が定年退職を迎えた。12月にハローワークで求人を出すものの問合せはなかった。2020年1月に求人Webサイト「indeed(インディード)」、2月には医療・福祉・保育系専門Webサイト「ジョブメドレー」に求人募集するも反応は薄い。3月に大学生非常勤職員を採用し職員配置(常勤換算)は保たれたが、求人反応の薄さを再度考察し、2020年度は週2日～3日勤務可能な非常勤職員1名の採用に繋げたい。

6. 保護者懇談会の開催

- 2019年6月にふらっと内で懇談会を開催した。当日は10名の保護者(母親)に参加してもらい、約10分程度の利用児の活動スライドショーや母親同士の交流ができた。2020年度は「コロナウイルス感染拡大」に伴う各制限により実施は未定とする。

【重点的に実施した取組】

- 2018年度サービス活動収益の大幅減をどこまで縮小させることができるかが2019年度のスタートだった。休日開所(年8日)、児童発達支援開所(9月)を含め、放課後等デイサービスの利用稼働率の上昇(前年69.5%→76.4%)が前年サービス費以上の達成を促し、前年比減を約300万円縮小させることができた。

【次年度にむけて】

- 「コロナウイルス感染拡大防止」による学校の臨時休校、緊急事態宣言による臨時休校の延長で2ヵ月以上長期休暇状況が続いている。終息目途が立つまで行動自体が制限され、感染の可能性と隣り合わせの状況ではあるが利用児・職員ともに踏みとどまれている。2020年度は安全安心を限りなく追及し事業計画で挙げた課題を実行・精査しながら運営していきたいと考える。

2019 年度 かるがも事業報告書

| | |
|------|---|
| 事業種別 | 地域子育て支援拠点事業 |
| 事業概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 2. 子育て等に関する相談、援助の実施 3. 地域の子育て関連情報の提供 4. 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施 |
| 事業方針 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て中の親と子供が安心して過ごせる場を提供するとともに、育児に関する相談の受け入れや、子育て講座・各種イベントなどの開催を通して、楽しく育児できるように支援する。 2. 地域のボランティアの参加・協力を得ながら、地域の子育て力を高めていく。 |

【2019 年度の成果と課題】

1. 開所時間の変更

- 火曜日に加え、毎週金曜日も 10 時～16 時まで開所した。
年齢層も広がり幼稚園帰りに寄ってくれるようになり、幼稚園での様子や情報などが聞ける。
お昼寝後も遊びに来る事ができ、午後からの活動の場となった。

2. 講座やイベントの充実

- 利用者さんの要望を普段の会話からキャッチし、ニーズに合った内容を考える。
新たな講座やイベントとして、「ママと子どもの姿勢教室」「童謡に親しもう」「冬の感染症」など行った。
ニーズのある食育講座や子育て講座は、定期的に行った。
- 子育て世代の防災意識を高める講座や、子育てを楽しむ為のお父さん向けの講座を開く。
子育て世代の防災意識を高める講座として、子どもと一緒に避難の方法や防災リュックの中身など話をしていただいた。
お父さん向けの講座を土曜日を開き、多くの参加があった。お父さん同士、子育ての悩みや楽しさを共有できた。
- 講座やイベントによっては、人気のため参加できない人がいる。

3. 0 歳児が普段から気軽に利用できる環境を整備する。

- 月に 2 回の赤ちゃんの日には毎回多くの参加があり、そこで繋がる事により他の日でも参加しやすくなった。
午前中は 0 歳児・1 歳児が多く、子育ての悩みなど話がしやすい。
ボランティアさんに見守りをしてもらう事により、先輩ママからのアドバイスを受けやすくなった。

4. 先輩ママのボランティアの協力

- 登録人数が 4 人に増えた。
先輩ママによる見守りや絵本の読み聞かせを通して、参加者さんとの交流も兼ねることができた。

利用者さんに近い目線でのサポートができた。

他に、親子工作やイベントの企画を3回担当してもらった。工作時の反省点として、親の方が熱心になり子どもはスタッフ任せとなった。

【重点的に実施した取組】

- 地域ぐるみでの子育てを充実させる為にも、先輩ママのボランティアを積極的に受け入れた。
登録は4人で、イベントとして「赤ちゃんハイハイレース」・「バレンタインカード作り」・「幼稚園の説明会」など、ボランティアさんが中心となって行った。
普段の見守りでは、子育て中の先輩ママとして相談やアドバイスなど、交流を深めながらサポートすることができた。

【次年度にむけて】

- 講座やイベントは新しく取り入れたのもあり、利用者さんのニーズに合わせて行う事ができた。
- 2月以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためイベントの中止や閉室が続いた。
その間、電話での相談、絵本やCDの貸し出し、手作りマスクやおもちゃ、工作キット等の配布を行い、利用者さんや地域の方に喜んでいただけた。
- 次年度も安心して利用してもらえる様、衛生面・安全管理の強化、講座やイベントの充実、ボランティアの方にも協力していただきながら地域での子育て支援に取り組む。
- 避難訓練を行うことができなかったため、開室後は早々に実施する。